改修工事

R4 23

鉄筋コンクリート造建築物の**外壁改修工事**に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 手動式エポキシ樹脂注入工法によるコンクリート打放し仕上げの外壁のひび割れ部の改修工事 において、鉛直方向のひび割れ部へのエポキシ樹脂の注入については、ひび割れ部の上部の注入口から下部へ順次行った。

2 ． 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法によるコンクリート打放し仕上げ外壁のひび割れ部の改修工 事において、エポキシ樹脂の注入完了後は注入器具を取り付けたまま硬化養生を行い、エポキ シ樹脂の硬化を見計らって仮止めシール材及び注入器具を撤去した。

3 ． 塗り仕上げ外壁の改修工事において、既存塗膜を除去する必要がなかったので、下地のひび割れ部の補修後に塗膜表面の粉化物や付着物を除去する水洗い工法を採用し、上塗りのみを塗り替えた。

4 ． 塗り仕上げ外壁の改修工事において、劣化の著しい塗膜や下地コンクリートの脆弱部分を除去する必要があったので、高圧水洗工法を採用した。

R3 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 防水改修工事において、既存保護コンクリートの撤去は、躯体や仕上げ材に損傷を与えないように、質量 10kgのハンドブレーカーを使用した。

2 ． 防水改修工事におけるルーフドレン回りの処理に当たって、防水層及び保護層の撤去端部は、既存の防水層や保護層を含め、ポリマーセメントモルタルで、 1/2程度の勾配に仕上げた。

3 ． かぶせ工法によるアルミニウム製建具の改修工事において、既存枠への新規建具の取付けにつ いては小ねじ留めとし、留め付けについては、端部を 100 mm、中間部の間隔を ~~500 mm~~とした。

4 ． 内装改修工事において、特定天井の天井下地に該当しない軽量鉄骨天井下地（吊りボルト受け等の間隔が 900 mm程度以下かつ天井面構成部材等の単位面積当たりの質量が 20 kg/m2以内） を新設するに当たって、再利用する既存の埋込みインサートについては、特記がなかったので、工事の当該階の 3 箇所に対してそれぞれ 400 Nの荷重による吊りボルトの引抜き試験を行った。

R元 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 既存のアスファルト防水の改修工事において、既存防水層を非撤去とすることとしたので、立上り部及びルーフドレン回りの防水層についても~~非撤去とした~~。

2 ． 既存のウレタンゴム系塗膜防水を撤去せず、新規にウレタンゴム系塗膜防水を施す改修工事において、既存防水層の膨れ部分については、カッターナイフで切除し、ポリマーセメントモルタルで平坦に仕上げた。

3 ． 既存のモルタル塗り仕上げ外壁の仕上塗材の改修工事において、既存塗膜の劣化部の除去を高圧水洗工法で行うに当たり、その処理範囲については、特記がなかったので、既存仕上げ面全体とした。

4 ． コンクリート打放し仕上げ外壁の改修工事において、鉄筋が露出していない比較的浅い欠損部であったので、ポリマーセメントモルタル充填工法を採用して補修した。

H30 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．防水改修工事において、既存保護コンクリートの撤去に用いる**ハンドブレーカー**は、躯体や仕上げ材に損傷を与えないように、質量 １５ kg未満のものとした。

2．アスベスト含有建材の除去工事においては、除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止のため、除去作業場所にて、所定のプラスチック製の袋の中に入れ、袋の中の空気を十分に抜く際に、この材等が**湿潤化**していることを確認した。

3．コンクリート打放し仕上げ外壁のひび割れ部の改修工事において、自動式低圧エポキシ樹脂注入工法で行うに当たり、エポキシ樹脂注入材の注入完了後、注入材が硬化する前に~~速やかに注入器具を撤去~~した。

4．アルミニウム製建具のかぶせ工法による改修工事において、新規建具と鉄筋コンクリート造の躯体との取合い部に用いるシーリング材については、目地深さが所定の寸法であり、**新規建具と躯体間の挙動が少ないことが確認できた**ので、ボンドブレーカーを省略し三面接着とした。

H29 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．かぶせ工法により既存建具を新規建具とする改修において、既存建具の方立・無目・障子等を撤去したうえで、外周枠を残し、その上から新規金属製建具を取り付けた。

2．塗膜はく離剤工法における既存の防水形複層塗材の塗り仕上げ外壁の改修において、 特記がなかったので、**試験施工を行ったうえ**で、既存の弾性を有する有機系塗膜を全面除去した。

3．タイル張り仕上げ外壁の改修において、~~モザイクタイル~~の広範囲にわたる浮きの改修については、注入口付**アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法を採用した**。

4．シーリング再充填工法による防水改修において、既存シーリング材の除去について は、目地被着体に沿ってカッターにより切込みを入れ、既存シーリング材をできる 限り除去した後に、サンダー掛け等により清掃を行った。

R5 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 既存保護層を撤去せずに改修用ドレンを設けない防水改修工事において、既存ルーフドレンの周囲については、ルーフドレン端部から 300 mm程度の範囲の既存保護コンクリートを四角形に撤去し、既存アスファルト防水層の上に防水層を新設した。

2 ． 既存保護層を撤去し、既存アスファルト防水層を残して行う防水改修工事において、新設する防水層の下地となる既存アスファルト防水層の処理については、既存防水層の損傷箇所、継目等の剥離箇所、浮き部分等を、切開し、バーナーで熱した後、溶融アスファルトを充填し、張り合わせた。

3 ． 既存のコンクリート打放し仕上げ外壁を厚付け仕上塗材仕上げとする外壁改修工事において、コンクリート面の下地調整については、目違いをサンダー掛けで取り除く程度で十分であったので、下地調整塗材の塗付けを省略した。

4 ． 既存の下地モルタルを撤去せずにタイルの部分的な張替えを行う外壁改修工事において、 1 か所当たりの張替え面積が 0 . 25 m2以下の箇所については、張替え下地面とタイル裏面の両面にポリマーセメントモルタルを塗り付け、タイルを張り付けた後、タイルの目地詰めまで 24 時間以上の養生を行った。

H25 23

外壁改修工事及び防水改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．既存のコンクリート打放し仕上げ外壁を厚付け仕上塗材仕上げとする改修工事にお いて、下地調整については、コンクリート壁の目違いをサンダー掛けで取り除き、下地調整塗材の塗付けは省略した。

2．**砂付あなあきルーフィングを用いる絶縁工法によるアスファルト防水層の改修工事** において、施工時の降雨に対する養生方法の特記がなく、新規防水層の２層目の ルーフィング張りまで終えたので、１日の作業終了後、シートによる降雨に対する 養生は省略した。

3．**モルタル塗り仕上げ外壁の浮き部分の改修工事**において、アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法を用いたので、全ネジ切りアンカーピンを固定するために使用するエポキシ樹脂の種類を硬質形、粘性による区分を低粘度形とした。

4．既存のウレタンゴム系塗膜防水を撤去せず新規にウレタンゴム系塗膜防水を施す改修工事において、既存防水層のふくれ部分については、カッターナイフで切除し、 ポリマーセメントモルタルで平滑に補修した。

H26 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．防水改修工事を行うに当たり、既存保護コンクリートの撤去は、**ハンドブレーカー** を使用し、取合い部の仕上げ及び構造体に影響を及ぼさないように行った。

2．**既存の塗り仕上げ外壁の改修工事**において、劣化の著しい塗膜や下地コンクリートの脆弱部分の除去については、高圧水洗工法を採用した。

3．**タイル張り仕上げ外壁のひび割れ部の改修工事**において、タイル張り仕上げの撤去に当たり、ひび割れ周辺をタイル目地に沿ってダイヤモンドカッターで切り込みを 入れ、ひび割れ部と健全部との縁を切った。

4．アスベスト含有建材の処理工事において、除去したアスベスト含有吹付け材は、所定の厚さのプラスチック袋の中に入れ、十分に乾燥していることを確認したうえで、 空気を抜いて密封した。

H27 23

各種改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．屋上緑化改修工事において、植物の地下茎が肥大成長するときに、耐根層のシート の隙間を貫通しないよう、耐根シートの重ね合わせの接合部については、平場と同 等の性能となるよう接合した。

2．**防火認定が必要な壁紙の張替え工事**において、コンクリート下地に強く張り付いた 既存の壁紙の裏打ち紙を~~残し~~、新規の壁紙を張り付けた。

3．アルミニウム製建具の改修工事において、新規建具と鉄筋コンクリート躯体の取合 いのシーリングは、目地深さが所定の寸法であり、被着体の挙動が少ないことが確認できたので、ボンドブレーカーを省略し三面接着とした。

4．下地がモルタル塗りである塗床の改修工事において、既存の合成樹脂塗床材の除去 は、電動ケレン棒を使用し、当該塗床材をモルタルとともに一体で撤去した。

H28 22

改修工事等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．コンクリート打放し仕上げの外壁のひび割れ部の手動式エポキシ樹脂注入工法によ る改修工事において、鉛直方向のひび割れ部については、ひび割れ部の下部の注入 口から上部へ順次注入した。

2．保護アスファルト工法による陸屋根の保護層を残し改修用ルーフドレンを設けない防水改修工事において、既存ルーフドレンの周囲の既存防水層の処理に当たっては、 既存ルーフドレン端部から500mm程度の範囲の既存保護層を四角形に撤去した後、**既存ルーフドレン端部から** 300mm程度の範囲の既存防水層を四角形に撤去した。

3．特定天井の天井下地に該当しない一般的な軽量鉄骨天井下地を新設する内装改修工事において、既存の埋込みインサートを再使用することとしたので、引き抜けない ことを確認するために、工事対象階の３箇所でそれぞれ 400Ｎの荷重により、吊りボルトの引抜き試験を行った。

4．建築物の劣化診断方法において、コンクリートの中性化深さの調査を、~~電磁波レーダ法~~により行った。

防水改修工事

- 既存防水層の処理
- シーリング
  - シーリング充填工法
  - シーリング再充填工法
  - 拡幅シーリング再充填工法
  - ブリッジ工法
  - 既存シーリング材をできる 限り除去
- ルーフドレン回りの処理
- ウレタンゴム系塗膜防水
  - 撤去せず
  - カッターナイフで切除
  - ポリマーセメントモルタルで平坦に仕上げた
- 道具
  - **ハンドブレーカー**
  - 質量 １５ kg未満
- 屋上緑化改修工事
  - 降雨対策
  - 新規防水層の２層目の ルーフィング張りまで終了

外壁改修工事

- コンクリート打放し仕上げ
  - ひび割れ部の改修
    - 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
    - **手動式エポキシ樹脂注入工法**
  - 厚付け仕上塗材仕上げとする改修
    - 鉄筋が露出していない比較的浅い欠損部
    - ポリマーセメントモルタル充填工法
- モルタル塗り仕上げ外壁
  - **高圧水洗工法**
  - 仕上塗材
    - 既存仕上げ面全体
  - アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
  - **アルミニウム製建具のかぶせ工法**
    - 新規建具と躯体間の挙動が少ないことが確認
    - **ボンドブレーカーを省略し三面接着**
  - 塗膜はく離剤工法
    - 有機系塗膜を全面除去
  - タイル張り仕上
- 内装改修工事
  - 天井
    - 再利用する既存の埋込みインサート
      - 3 箇所
      - 吊りボルトの引抜き試験
        - 400 Nの荷重
    - 特定天井の天井下地
  - **アスベスト含有建材の除去工事**
    - 湿潤化
    - 飛散防止
      - 所定のプラスチック製の袋
  - 防火認定が必要な壁紙の張替え工事
  - 建具の改修
    - かぶせ工法

類似

類似

類似